

良い子、
しかし賢いよ

(46) (54) (62) (70) (78) (86) (94) (102) (110) (118) (126) (134) (142) (150) (158) (166) (174) (182) (190) (198) (206) (214) (222) (230) (238) (246) (254) (262) (270) (278) (286) (294) (302) (310) (318) (326) (334) (342) (350) (358) (366) (374) (382) (390) (398) (406) (414) (422) (430) (438) (446) (454) (462) (470) (478) (486) (494) (502) (510) (518) (526) (534) (542) (550) (558) (566) (574) (582) (590) (598) (606) (614) (622) (630) (638) (646) (654) (662) (670) (678) (686) (694) (702) (710) (718) (726) (734) (742) (750) (758) (766) (774) (782) (790) (798) (806) (814) (822) (830) (838) (846) (854) (862) (870) (878) (886) (894) (902) (910) (918) (926) (934) (942) (950) (958) (966) (974) (982) (990) (998)



「いいもー!」
と、友と言

(55) (60) (65) (70) (75) (80) (85) (90) (95) (100) (105) (110) (115) (120) (125) (130) (135) (140) (145) (150) (155) (160) (165) (170) (175) (180) (185) (190) (195) (200) (205) (210) (215) (220) (225) (230) (235) (240) (245) (250) (255) (260) (265) (270) (275) (280) (285) (290) (295) (300) (305) (310) (315) (320) (325) (330) (335) (340) (345) (350) (355) (360) (365) (370) (375) (380) (385) (390) (395) (400) (405) (410) (415) (420) (425) (430) (435) (440) (445) (450) (455) (460) (465) (470) (475) (480) (485) (490) (495) (500) (505) (510) (515) (520) (525) (530) (535) (540) (545) (550) (555) (560) (565) (570) (575) (580) (585) (590) (595) (600) (605) (610) (615) (620) (625) (630) (635) (640) (645) (650) (655) (660) (665) (670) (675) (680) (685) (690) (695) (700) (705) (710) (715) (720) (725) (730) (735) (740) (745) (750) (755) (760) (765) (770) (775) (780) (785) (790) (795) (800) (805) (810) (815) (820) (825) (830) (835) (840) (845) (850) (855) (860) (865) (870) (875) (880) (885) (890) (895) (900) (905) (910) (915) (920) (925) (930) (935) (940) (945) (950) (955) (960) (965) (970) (975) (980) (985) (990) (995)

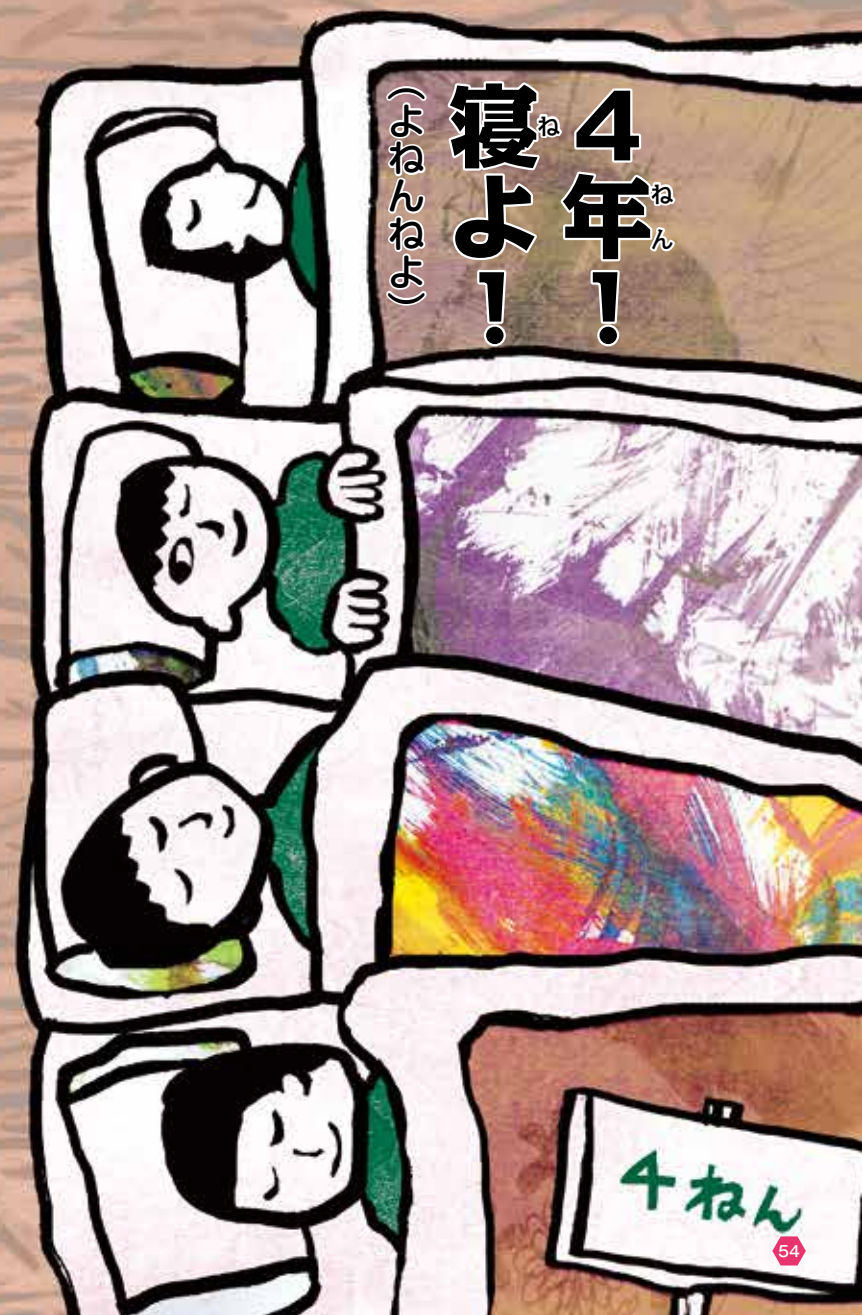




5ねん

寝る5年!
損ね、ごろ寝

(ねるごねんそんねいごね)



寝よ!
4年!

(めねんね)

4ねん

『悦目抄』は和歌の作り方や味わい方などについて書かれた書物で、書かれた時期は鎌倉時代の中期という説があるものの、はっきりとは分かっていません。回文について「廻文とは、かじらぬりも下りも同じ様にやまざるなり」意味：回文とは最初から読んでも下から読んでも同じように読んでみるものと説明がなされています。



その他の古い回文には次のようにものがあります。

「長き夜の もはるかにて そまへらへ ませでにかるは ものよきかな」
 なかきよの もはるかにて そまへらへ ませでにかるは ものよきかな

藤原隆信(平安時代) 鎌倉時代 『藤原隆信朝臣集』

「とくただし里のたかむら雪白し消ゆるむ方とよせつ明へと」
 とくただしさとたかむらゆきしろしきゆるむかたととせしたたくと

頼阿(鎌倉時代) 南北朝時代 『草庵集』

「白雪は今朝野良草の葉にもつも庭の桜の咲けは消ゆらじ」
 しじゆきはけらのらくらのほにもつもこのはのたへらのせはきゆらじ

石田未得(江戸時代) 『吾吟我集』

